

未

野

木野通信

Kino Press No.50

Kyoto Seika University

京都精華大学

木野通信 第50号 2010年7月20日発行
 京都精華大学入試広報部広報課
 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
 TEL 075-702-5197



「無題」日浅 暎 (洋画コース 206P052)

1968年という時

学長◎ 坪内成晃 ʼSubouchi Shigeaki

40 数年前、日本中の大学が「大学とは何か」と問いはじめた状況のさなかに、京都精華短大設置準備事務局から仕事をしないかという誘いをうけた。当時、美術大学を卒業したてでデザイナー志望の私は、その誘いにあまり気がしなかった。しかし、新しい価値を模索しようとする激動の時代だからこそ、大学づくりという漠然とした夢にかけてみた。今は参加することができて本当によかったと思っている。

本棚にある古いスクラップブックの最初に、数枚のぼんやりしたモノクロ風景写真が貼ってある。欄外に1967年5月20日と記されている。その後、その原野に小さなプレハブが建った。短大建設地の出張所である。山裾の竹林と雑草に囲まれた、まるで隠し砦のような造りだ。私の仕事は広報担当。要するに受験生募集。ほかに集められた若い教職員と共に、毎日その砦から各地の高校にとび出していった。訪問高校は半年間、1日10校が目標。まだ、かたちのない大学なので、懸命に教育の可能性を語るしかなかった。共にした仲間とは仕事が終わると、よく飲んだ。そのときの雑談や議論の積み重ねが友情を育んだ。教職員同士の尊敬と信頼が、入学してきた学生にも伝わっていったのが嬉しかった。

岡本清一初代学長が遺したことは「学生はこの大学において、いっしょに人間として成長する為には、われわれはいかにあるべきか、という基本的な問題について考えてきた。大学においてもっとも大切なことは、高い人間関係を創り上げていくことである。」その使命のもと京都精華短大は1968年開学した。

私がセイカ史の体現者として、その後の混沌とした42年間で見てきたのは「人間を尊重し人間を大切にす

る」という教育理念の実践であった。いま、学長に就任して、確信をさらに強くしている。

これからも、真に68年的な可能性へと向かおうとする意志を、みんなで持ち続けたい。

通

信

1 坪内成晃先生が 学長に就任

創立時からデザイン教育に携わる

5月25日より坪内成晃先生が新学長に就任した。任期は2010年5月25日から2014年5月24日までの4年。

坪内先生は、京都精華大学の前身・京都精華短期大学創立時から一貫してビジュアルデザイン教育に携わってきた人物。就任直前の4月まで、ビジュアルデザイン学科イラストレーショ

ンコースにて教鞭を振るっていた。

就任にあたり、坪内先生は「創立当初の68年から精華にいますが、これまでの精華の歴史がいかに素晴らしいか、僕は確信している。自由自治の理念をいま改めて振り返り、教職員が一丸となってこれまで以上に協力し合うことが大切」と話している。



2 2010年度 入学式を開式

デザイン研究科、マンガ研究科に1期生が入学

4月1日、2010年度京都精華大学入学式が京都国際会館にて行われた。2010年度より開設したデザイン研究科、マンガ研究科の1期生も含め、新入学生は977人。4学部、4研究科という新体制のスタートが切られた。

また、2009年度に本学の名誉を高める業績を残した功労者に贈られる「学長賞」が、この日授与され、下記の方々が受賞した。

「学長賞」

石川九揚（デザイン学部教授）
第36回大佛次郎賞を受賞。また長年にわたり多くの優れた書の作品や評論をあらわした功績により。

DAINES（芸術・デザイン・マンガ学部の学生有志によるグループ）

舞鶴市において、市民と共同で壁画アートを制作するなどして、高大連携事業および地域連携活動に大きく貢献した功績により。

ホスピタルアート

ボランティアグループ（芸術・デザイン・マンガ学部の学生有志によるグループ）
京都第一赤十字病院の依頼で、小児病棟の病室や廊下に森をイメージしたイラストを制作し、病気治療中の子どもたちに癒しや元気を与えた功績により。

「学長特別賞」

「フミコの告白」制作チーム

（アニメーション学科学生チーム）

短編アニメ「フミコの告白」がインターネットを通じて公開され多くのアクセスを集め話題となった。また、YouTube VIDEO AWARD JAPAN 2009のアニメ部門や、第9回東京アニメアワード公募部門の学生優秀賞を受賞した功績により。



3 プロダクトデザイン学科が再編

2011年度よりプロダクトコミュニケーションコース、ライフクリエイションコースに

デザイン学部プロダクトデザイン学科が、2011年度より再編される。コースは、プロダクトコミュニケーションコース、ライフクリエイションコースの2つ。

「プロダクトコミュニケーションコース」では、自動車や家電などの工業製品のデザインはもちろん人と人、人と機械をつなぐインターフェイス、環境までをデザインする力を養っていく。一方、「ライフクリエイションコース」では、インテリアや雑貨、住まいや店舗、アクセサリーなど、心や感性に訴えるデザインを通して、新しい生活

スタイルのプロデュース力を身に付ける。

また、「京都デザインアクシス」という両コースを横断するプログラムを新たに設置。京都という地域性を活かして、地元企業や行政機関とのコラボレーションを積極的に進めていく。「京都」は、歴史と伝統の都であり、学術都市であり、新しい産業屋技術を切り開いた先端企業が多数ある地。また、環境に配慮した都市としても国際的に有名である。そんな地域性を活かしたプログラムが多数計画されている。

プロダクトコミュニケーションコースの授業では、調査、企画、デザイン試作まで一貫したプロダクトデザインのプロセスを体験。



モノから空間へのインテリアデザイン、ジュエリーや陶器などの生活雑貨デザインの専門知識と技術を学ぶライフクリエイションコース。

News

4 アルメニア

施設設計コンペで最優秀賞

建築学科新井チームの借景技法を取り入れた
デザインが評価

アルメニアの首都エレバンに建設される複合施設をデザインする国際コンペで、デザイン学部建築学科の新井清一先生のチームが最優秀賞を獲得した。このチームには在大学生や院生もおり、デザイン制作に加わっている。

ホテルやマンションなどの建物の間から雄大な山が一望で

きるデザインは、山を借景とする京都の庭園の技法を取り入れており、世界中から集まった約280チームの頂点に選ばれた。首都近代化の象徴となる建物への採用に、新井先生は「選ばれて光栄に思っている。日本人による設計として語り継がれるような施設になってほしい」と語った。

このコンペはアルメニア人の

事業家が主催し、5月末に受賞が決定。2014年の完成を目指している。



News

クリエイティブラボ・プロジェクトがはじまる

全学部の学生が参加するプロジェクトが始動

社会連携センターのプロジェクトプログラム「クリエイティブラボ・プロジェクト」がスタートした。

「クリエイティブラボ・プロジェクト」は、世界のトップアーティストやデザイナー、プロデューサーを本学へ教員として招き、学生たちに世界レベルの表現教育を提供することを目的とする。芸術・デザイン・マンガ・人文の4学部すべての学生が参加でき、実際の企画や制作活動をアーティストとともに、ジャンルを横断するプログラムとなる。

8月には、イタリアからセルジオ・カラトローニ氏が来日し、講義とワークショップを行う。このプロジェクトでは、デザインや

建築と社会とのかかわりについての講義と、模型やオブジェを制作するワークショップを行い、最終日には展示・発表会を行う予定。

また、アメリカを拠点に先端的なテクノロジーを使ったコミュニケーションツールを発表するジェームズ・パウダリー氏のプロジェクトでは、家政学の観点から、テクノロジーを用いて家庭内で実行可能なDIY作業を、料理や科学などいくつかの異なるカテゴリーのワークショップとして行い、新しいアートの領域を体験することができる。

このほか、映画や文学などに関してもプロジェクトが立ち上がる予定だ。

News

アセンブリーアワー講演会

あらゆる領域から、いま活躍する
旬のゲストを招くアセンブリーには、
今年度前期もさまざまなゲストが来学した

5/13

KIKIさん

(モデル・女優)

講演会タイトルは「展示会のつくりかた」。モデルであるKIKIさんが、写真集をつくらうと思った経緯や、展示会をどのような考えで開催しているのかを語った。「写真を撮ること、それをまとめること、まとめる作業をすることが楽しいので続けたい。続けたいから見えてくることがあると思う」と話された。



える「芸術とは何か」を語った。



6/24

山川冬樹さん

(ホーム歌手・アーティスト)

自らの「声」と「身体」を使って、音楽や美術、舞台などさまざまなジャンルを横断しながら活動している山川さんは、今回も実際にパフォーマンスを行い、その一つ一つについて丁寧に解説。過去の作品の映像上映もあり、講演終了後、在大学生を中心とした参加者からの質問は1時間あまり続いた。



5/20

吉村絵美留さん

(絵画修復家)

ルノワール、藤田嗣治、モネ、ピカソなどの絵画を、40年にもわたって修復されてきたことや、その技法について話を聞くことができた。特に、岡本太郎「明日の神話」の修復についてはたくさんエピソードが語られ、参加者たちは熱心に耳を傾けた。



7/8

ヴィカース・スワループさん

(駐大阪神戸インド総領事・小説家)

映画『スラムドック\$ミリオン』の原作者が語ったのは、作品制作におけるインスピレーションの大切さと構成員、そして実現までの行動力について。「クリエイティブに近道はない」と熱く語り、参加者の多くは最後まで真剣にメモを取り続けていた。



6/10

前田司郎さん

(劇団「五反田団」主宰・小説家)

「生と性と聖」と題され、小説を書き始めたきっかけから、劇作家としての今、そして、言葉を操る「作家」としての前田さんが考

Report 2010年度新任教職員

2010年度から本学に新任した教職員の方々

芸術学部



木下長宏
造形学科 客員教授



塩田千春
造形学科 客員教授

デザイン学部



平田喜大
プロダクトデザイン学科
准教授



吉田英治
プロダクトデザイン学科
客員教授(2009年度までは特任教授)



ペーター クック
Pertter Cook
建築学科 客員教授



前田紀貞
建築学科 客員教授

マンガ学部



ひさうち みちお
カートゥーンコース
教授



都留泰作
ストーリーマンガコース
准教授



belne
ストーリーマンガコース
講師



業田良家
マンガ学科 客員教授



三宅 克
マンガプロデュース学科
客員教授



人文学部



竹島昭雄
教授

社会連携センター

李 鳳宇 客員教授

James Powderly 客員教授

Sergio Calatoroni 客員教授

三河かおり 准教授

事務局職員

池田和正 入試広報部 広報課

下田啓真 入試広報部 広報課

西島久美子 教務部 教務課

藤井秀昭 総務部 経理課

矢澤 愛 企画室 企画課

Report 2

2009年度 退職教職員

以下の方々が2009年度で
退職された

中尾 博
(デザイン学部)

中田希佳
(デザイン学部)

GM. Sudarta
(マンガ学部)

David Boggett
(人文学部)

Khoontong Intarathai
(人文学部)
※2010年9月退職

松谷昌順
(デザイン学部)
※2010年7月退職

北脇 学
(学長室 学長事務課)

木村四郎
(総務部 環境施設課)

小島弘巳
(学生部 学生課)

崎本絢子
(企画室 企画課)



Report 3 2010年度大学人事体制

2010年度の大学役職者は以下のとおり

理事長
赤坂 博

学長
坪内成晃

専務理事・常務理事(総務担当)
上々手良夫

常務理事・副学長(教学担当)
教学推進センター長
社会連携センター長
葉山 勉

常務理事・副学長(学生担当)
武藏篤彦

常務理事(企画担当)
企画室長
石田 涼

理事
杉本貞彦

理事
佐藤茂雄

理事
尾池和夫

理事
安村幸駿

監事
崎間昌一郎

監事
位ノ花俊明

監事
堂山道生

芸術学部長
松本ヒデオ

デザイン学部長
新井清一

マンガ学部長
竹宮恵子

人文学部長
堤 邦彦

大学院芸術研究科長
河村源三

大学院デザイン研究科長
井上斌策

大学院マンガ研究科長
Jaqueline Berndt

大学院人文学研究科長
全学研究センター長
斎藤 光

共通教育センター長
高橋伸一

情報館長
島本 洸

総務部長
有田好人

入試広報部長
関口正春

入学部長
市村富美夫

学長室長
福岡正藏

教務部長
栗巢 満

教務部事務部長
武田恵司

学生部長
雲丹亀利彦

学生部事務部長
高橋 勇

就職部長
力士 勝

京都国際マンガミュージアム館長
養老孟司

国際マンガ研究センター長
牧野圭一

京都国際マンガミュージアム
事務局長
上田修三

学部別学生数

芸術学部	959人
デザイン学部	843人
マンガ学部	853人
人文学部	1,432人
大学院	109人
合計	4,196人

(2010年5月現在)

4 Report 2009年度決算および、2010年度予算について

2009年度決算について

2009年度の帰属収入は前年度から約7千万円減少し、約71億4千万円でした。このうち学生納付金は83%を占めています。

この中から風光館実習室の改修工事や、地上デジタル放送受信設備の設置、その他学内施設の諸改修工事等で約8千万円の施設関係支出を行いました。また黎明館のコンピュータ教室の設備やアニメーション学科のコンピュータ関係の設備、その他経常的な図書・備品充実等で約1億4千万円の設備関係支出を行いました。その結果、当年度の大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は約2億6千万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は約65億2千万円となり、2009年度の消費収支は約3億6千万円の収入超過となりました。この結果、累積消費支出超過額はおよそ33億7千万円となりました。

支払資金（現金・預金）は、前年比約9億1千万円増の約45億8千万円となりました。

その結果、自己資金率は0.9%増加して、79.3%となりました。

2010年度予算について

2010年度は電話交換設備の更新や情報館のデジタルハイビジョン化対応の施設設備・備品等の購入を行います。また2010年度に開設しデザイン研究科・マンガ研究科の充実を計ります。それらの結果、単年度の消費収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含み1億8千万円程度の支出超過予算となっています。

また、支払資金（現金・預金）は、2009年度に比べて約16億4千万増の約62億2千万円となっています。

今後については、入学確保の他、国庫補助金・助成金の獲得や受託事業等の増大に向けて更に取り組みを強化し、外部資金の導入による増収を図ります。単年度収支についても早期に黒字とし、教育活動の充実とともに財政の安定化を図っていきます。

貸借対照表

2010(平成22)年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部	本年度末	前年度末	増減
科目			
固定資産	23,680,713	24,055,230	△ 374,518
有形固定資産	19,217,764	19,816,296	△ 598,533
土地	4,228,370	4,228,370	0
建物	12,254,069	12,693,363	△ 439,293
構築物	488,886	565,333	△ 76,447
教育研究用機器備品	1,169,910	1,258,595	△ 88,684
その他の機器備品	38,937	47,738	△ 8,801
図書	1,036,629	1,020,024	16,605
車輛	961	2,874	△ 1,912
その他の固定資産	4,462,949	4,238,934	224,015
電話加入権	3,631	3,631	0
ソフトウェア	6,089	0	6,089
有価証券	3,024,333	3,076,705	△ 52,372
長期貸付金	329,671	350,294	△ 20,623
退職給付引当特定資産	936,785	647,666	289,119
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0
保証金	12,439	10,637	1,802
流動資産	5,059,534	4,222,410	837,124
現金預金	4,579,033	3,664,138	914,896
未収入金	219,632	296,979	△ 77,347
貯蔵品	6,335	7,919	△ 1,584
短期貸付金	25,797	22,193	3,604
有価証券	203,200	202,802	398
立替金	3,578	4,897	△ 1,319
前払金	21,759	23,462	△ 1,703
仮払金	200	20	180
資産の部合計	28,740,247	28,277,641	462,606

負債の部	本年度末	前年度末	増減
科目			
固定負債	3,750,110	3,932,368	△ 182,257
長期借入金	2,797,920	3,046,220	△ 248,300
退職給付引当金	952,190	886,148	66,043
流動負債	2,188,210	2,160,913	27,297
短期借入金	248,300	248,480	△ 180
未払金	111,271	95,284	15,986
前受金	1,592,814	1,603,746	△ 10,931
預り金	235,825	213,403	22,422
負債の部合計	5,938,320	6,093,280	△ 154,960

基本金の部	本年度末	前年度末	増減
科目			
第1号基本金	25,554,171	25,297,037	257,134
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	150,000	150,000	0
第4号基本金	467,000	467,000	0
基本金の部合計	26,171,171	25,914,037	257,134

消費収支差額の部	本年度末	前年度末	増減
科目			
翌年度繰越消費支出超過額	3,369,244	3,729,676	△ 360,433
消費収支差額の部合計	△ 3,369,244	△ 3,729,676	360,433
科目			
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	28,740,247	28,277,641	462,606

2009(平成21)年度決算 2009年4月1日から2010年3月31日まで

資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	金額
科目	
学生生徒等納付金収入	5,911,155
手数料収入	64,180
寄付金収入	30,010
補助金収入	662,130
資産運用収入	85,129
資産売却収入	1,028,842
事業収入	202,605
雑収入	149,293
借入金等収入	0
前受金収入	1,592,814
その他の収入	578,089
資金収入調整勘定	△ 1,823,378
前年度繰越支払資金	3,664,138
収入の部合計	12,145,006
支出の部	金額
科目	
人件費支出	3,404,679
教育研究経費支出	1,452,470
管理経費支出	688,822
借入金等利息支出	78,963
借入金等返済支出	248,480
施設関係支出	80,444
設備関係支出	142,099
資産運用支出	1,435,194
その他の支出	156,788
資金支出調整勘定	△ 121,966
次年度繰越支払資金	4,579,033
支出の部合計	12,145,006

消費収支計算書

(単位:千円)

消費収入の部	金額
科目	
学生生徒等納付金	5,911,155
手数料	64,180
寄付金	32,852
補助金	662,130
資産運用収入	85,129
資産売却差額	30,729
事業収入	202,605
雑収入	149,293
帰属収入合計	7,138,072
基本金組入額合計	△ 257,134
消費収入の部合計	6,880,938
消費支出の部	金額
科目	
人件費	3,470,722
教育研究経費	2,185,322
管理経費	755,020
借入金等利息	78,963
資産処分差額	20,772
徴収不能額	9,706
消費支出の部合計	6,520,505
当年度消費収入超過額	360,433
前年度繰越消費支出超過額	3,729,676
翌年度繰越消費支出超過額	3,369,244

2010(平成22)年度予算 2010年4月1日から2011年3月31日まで

資金収支予算書

(単位:千円)

収入の部	金額
科目	
学生生徒等納付金収入	5,783,471
手数料収入	68,100
寄付金収入	19,100
補助金収入	582,900
資産運用収入	83,566
資産売却収入	500,000
事業収入	179,177
雑収入	152,976
前受金収入	2,975,988
その他の収入	279,410
資金収入調整勘定	△ 1,792,329
前年度繰越支払資金	4,579,033
収入の部合計	13,411,393
支出の部	金額
科目	
人件費支出	3,442,130
教育研究経費支出	1,519,682
管理経費支出	729,331
借入金等利息支出	72,100
借入金等返済支出	248,300
施設関係支出	31,433
設備関係支出	126,137
資産運用支出	1,100,000
その他の支出	43,848
予備費	0
資金支出調整勘定	△ 121,759
次年度繰越支払資金	6,220,191
支出の部合計	13,411,393

消費収支予算書

(単位:千円)

消費収入の部	金額
科目	
学生生徒等納付金	5,783,471
手数料	68,100
寄付金	22,300
補助金	582,900
資産運用収入	83,566
資産売却差額	1,630
事業収入	179,177
雑収入	152,976
帰属収入合計	6,874,120
基本金組入額合計	△ 432,000
消費収入の部合計	6,442,120
消費支出の部	金額
科目	
人件費	3,481,130
教育研究経費	2,252,682
管理経費	785,731
借入金等利息	72,100
資産処分差額	18,070
徴収不能額	15,000
予備費	0
消費支出の部合計	6,624,713
当年度消費収入超過額	182,593
前年度繰越消費支出超過額	3,369,244
翌年度繰越消費支出超過額	3,551,837

Report 5

客員授業による授業 様々な業界から迎える客員教授の授業をご紹介します

5/22

永島譲二先生

BMWカーデザイナー
デザイン学部客員教授

アダム・オペルAG、ルノー、BMW AGなど、これまで手がけてきた自動車デザインの仕事について講演。その後行われたスケッチ教室では、自らスケッチをその場で描いて披露。自分のスケッチを持参した学生らは、細やかなアドバイスをもらっていた。



デジタル以降の印刷技術について語った。写真と版画の関係について触れ、今では貴重なフィルムを使用して印刷された版画を紹介。講演後は作品を一目見ようと、教壇の前に参加者が集まっていた。



ことと、それを伝えることのむずかしさに改めて気づかされていた。

6/24

業田良家先生

マンガ家
マンガ学部客員教授

6/16

タナカカツキ先生

マンガ家
デザイン学部客員教授

4回生のゼミに1回生の希望者も参加して、課題作品の講評が行われた。あらかじめ出されていた課題は「すごいぬり絵」。タナカさんからの確かなコメントをもらった学生たちは、自分の表現したい



マンガ学部の学生を対象とした講義では、自身のマンガ作品を追求してきた経験を語った。また、カートゥーンコースの授業では、川柳をテーマにした4コママンガを描くワークショップを実施。マンガ家ならではの視点で学生たちの細かなこだわりも見つけ、あたたかい言葉で作品を講評した。

6/2

畠山直哉先生

写真家
芸術学部客員教授

「写真と版画」というテーマで、

6/14

りんたろう先生

アニメーション監督
マンガ学部客員教授

アニメーションコース1回生の授業で、これから大学で4年間アニメを学ぶ中で身に付けるべきことを熱く語った。学生たちは、アニメ業界の現状や、制作者に必要な知識と想像力の大切さ、心構えについてを、真剣な表情でメモを取りながら耳をかたむけていた。



Report 6

特別ゲストが来学

こんなゲストも精華に来ている

4/27・28

HIFANAさん

(ブレイクビーツユニット)

NIKEのキャンペーン映像でも有名なHIFANAが、デジタルクリエイションコース3回生の授業



でゲスト講師を務めた。課題はHIFANAのジングル制作で、1日目は企画のプレゼンとディスカッション、2日目には撮影が行われた。HIFANAの二人ならではのスタンスから、撮影現場の雰囲気作り方や、アイデアの膨らませ方など、数多く学べる機会となった。

5/14

茂山 茂さん

(狂言師)

人文学部の真下美弥子先生の「伝統文化総合講座」にゲストとし



て登場。古典芸能の歴史についての講義と、狂言の仕草の実演が行われた。講義に参加した学生は、喜劇である狂言の笑い方「大笑い」を全員で体験。学生たちの表情がほぐれ、なごやかな雰囲気となった。

6/5

HIRO-PONさん

(パントマイミスト/がーまるちよば)

人文学部の「広告表現IB」での

講義。学生たちはHIRO-PONさんの説明を受けながら、自分の感覚を意識するトレーニングや、パントマイムを体験。はじめは上手くできなかった学生たちも、マイムらしく見えるポイントをアドバイスされると、コツをつかんでどんどん上達していた。HIRO-PONさんは「今日の体験を今後の表現に活かしてほしい」と講義をしめくくった。



芸術学部ビジュアルデザイン専攻 2003年卒業 アーティスト 姉川美恵子さん

姉川美恵子さんが、大学卒業後すぐにニューヨークへ渡ったのは、シンプルな理由からだ。「アートの中で自分の力を試してみたいと思ったから」。いまもそこで生活し、自然と女性を融合させたコンテンポラリーアートを描いている。

きっかけは、ニューヨークで生活していた知り合いから、「ここは忙しくて貪欲な街。その分若いアーティストでも実力があれば受け入れてくれる。あなたの性格に合っている」と言われたこと。実際にニューヨークへ来てみてその通りだと思った。最初の1年は学校へ通い、その後

インターンから入ったグラフィックデザインの会社で3年ほど働いた。その後はフリーで活動をしている。

絵画展への出展、ギャラリーでの展覧会、いろんなアーティストとコラボレーションなどのほか、副業としてフリーでグラフィックやWebデザインなども。「アートの仕事」には実は「アート以外の仕事」もたくさんあります。例えばPRのために、自分の作品について多くを語らなければならなかったり、社交場にも顔を出さなければならない。そのことで制作時間そのものが削られるのがつらいですね。副業のデザインの仕事

も楽しいけど、やはり絵を書くほうが好きなので、アートだけで暮らして行きたい。それには、まだまだ時間がかかるなと思っています」

大学時代のことを聞いてみた。「グラフィックデザインのスキルはもちろんですが、こまごまとしたアートに関する知識や考え方が今も役に立っています。陶芸の短期集中授業を受けて、陶芸家でもある先生たちから、アーティストとしての生き方、あり方を知

りました。また人文学部の講義も受講していたので直接アートに関係ないような知識が得られたこともよかった」と振り返る。

「アーティストとして生活することは簡単なことではないけど、やる気と持続する気持ちがあれば大丈夫です！実はそれが難しいのですが。本当に自分にとって納得のいく作品を日々作り続けていきたいと思っています」。



<http://www.miekomieko.com>



活躍する卒業生

様々な業界で活躍する卒業生を紹介します

芸術学部立体造形専攻 1992年卒業 桶職人 中川周士さん

て生まれ、現在は独立。比良山の麓に工房を構えている。

学生時代は、彫刻に夢中になり、日夜、鉄を叩いた。「家業を継ぐことへの反抗心もあって、まったく違う素材をやりたかった」。卒業後は、制作を続けながら、家業の桶職人の道を歩み始めた。

使うカンナは300丁以上。初代の祖父、二代目の父とまったく同じ桶をつくってこそ一人前と言われる世界。「個性を消すことが仕事だと思っていました」。

ところが、10年がたった頃。修理で預かった桶を見て、祖父か父親か叔父か、誰がつくったものかわかることに気づいた。寸法はまったく同じ

だが、微妙な勾配や脚の練り方にクセや好みが出る。周士さんは「どうしても消えない個性」があることを発見した。「作家もしているのだから、人がやっていない技法や表現を求めることが個性だと思っていました。でも、正反対のベクトルをもった美術と工芸が、同じところに収束していく可能性を見たというか」。

かつては京都市内に200軒以上あった桶屋が、現在は5軒。だが、周士さんの工房は大忙しだ。ドンペリニオンはじめ外国ブランドやデザイナーとのコラボレーションを成功させている。「これも精華のおかげ」と。精華での勉強や出会いから新しいデザイン

を取り入れる必要性を感じたという。

「伝統と言われるものも、その当時は先端技術だったので。デザイナーと職人が話し合いを重ねて、現場を知り、本当の意味でコラボレーションができれば、すごいものができる。100年以上残る、新しい定番をつくりあげていけたらと思います」。

六畳ほどの作業場で、周士さんは今日も木を削り、磨く。現代美術との二足のわらじを履く桶職人だからこそ、つくりあげられる新しいスタンダードを目指して。

中川木工芸 比良工房
滋賀県大津市大物731-1
<http://www.grass-garden.com/>



今年1月、フランスのシャンパンブランド「ドンペリニオン」が、京都の桶職人親子のつくったシャンパンクーラーを見初めた。そのニュースは、世界中に日本の伝統と新しいデザインとの融合の可能性を知らしめた。

その親子、父は人間国宝の中川清司さん。そして息子は周士さん、立体造形の卒業生だ。周士さんは代々続く桶屋「中川木工芸」の三代目とし

教員が綴る自身の近況

拝啓、卒業生のみなさんへ

From Teacher 

松谷昌順先生

皆さん、お久しぶりです。突然ですが、実は、この7月いっぱいまでセイカを卒業することになりました。私が1970年にセイカに着任して以来40年の年月が経ってしまいました。現在は、66才。定年より少し早い退職ですから、厳密には、名実共に中途退学というところでしょうか。2006年に新しいデザイン学部が開設されて4年目（完成年度）を迎えたのを見届けて区切りとしました。着任当時、学生とは10才上の兄弟のような存在でしたが、いまや学生との年齢差はひろ

がる一方で、これではカレントなデザインを語るできません。セイカでの40年をあえて一言で言えば、やはり、人間的で個性的な学生諸君に出会えたということにつきるでしょう。70年代、80年代、90年代、そして2000年代へと激動の文化のうねりの中で一緒に生活を共にしたセイカと多くの仲間達でした。頑張れ、セイカ。また会える日まで。



松谷昌順 先生
デザイン学部教授、
専門はグラフィックデザイン。
在籍40年

三上賀代先生

夕暮れ時の水上ステージ付近から、笛、鉦、太鼓の阿波踊りのよしこのメロディーが聞こえ始めると、私のからだに夏が来る。故郷徳島の草いきれにつつまれて別れた人たちが私のからだに蘇る。ぞめきのリズムに浮かれ、母の背中中で手をあげ踊った日から半世紀、思いもかけず私は一生踊って暮らすことになった。昨年夏、私は、ジプシーに教えを乞うて25年前日本を発った友人をアンダルシアに訪ねた。踊ることが生きることのジプシーたち。世界でたったひと

つの「暗黒舞踏ゼミ」のたった一度だけの野外パフォーマンス「白塗り体験舞踏・38億年の記憶」で、学生たちも自分のからだに向き合うイニシエーションを体験する。野外「白塗り舞踏」も精華の夏の風物詩となった。今夏、阿波精華連は恒例の徳島の盆祭りに向かい、私は東京・両国シアターXで作品「献花」を踊る。



三上賀代 先生
人文学部教授、研究分野は身体表現。とりふね舞踏会主宰。在籍9年

Topics

I 四条烏丸に
産学連携と
情報発信の拠点

7月末で閉店となる shin-bi が、8月15日より新たにデザイン発信スペースとして生まれ変わります。IT企業と連携して、デザインやテクノロジー分野を中心にしたセミナーやワークショップの実施、ギャラリーとして活用することで、京都精華大学の活動を社会へアピールしていきます。なお、

8月8日からはプレオープン企画として、本学にて実施された、世界的に活躍するイタリア人デザイナーであるセルジオ・カラトロニ氏のワークショップで制作した学生の作品と、制作過程記録の展覧会を予定しています。

2 Topics
大学ブログ・
ツイッター
更新中

京都精華大学ブログ「seika-sekai」をほぼ毎日更新中です。

アセンブリーアワー講演会や学生主体のイベント、特別講義、日々の雰囲気など、精華の毎日をのぞいてもらえます。

ツイッターでは、ニュースやイベント情報をいち早くお届けしています。

- 京都精華大学ブログ
<http://seika-sekai.jp>
- seika ∞ sekai Twitter
http://twitter.com/seika_sekai
- しかおのつぶやき
http://twitter.com/seika_shikao

Topics

3 google ストリート
ビューでキャン
パスを公開中

google マップのストリートビューでキャンパス内を公開しています。大学敷地内入り口の警備棟から、北は風光館周辺、西はグラウンドまでを、実際に歩いているように写真でみていただくことができます。google マップから京都精華大学を検索してご覧ください。

ご支援下さるみなさまへ
～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付使途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。

この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。

詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

● 寄付募集 Web サイト

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/donate/>

● お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL : 075-702-5201 / FAX : 075-702-5391

kikaku@kyoto-seika.ac.jp

Kino Press No.50
Kyoto Seika University

木野通信 第50号
2010年7月20日発行

京都精華大学入試広報部広報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5197

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

「木野通信」送付先住所の変更は企画室・木野会事務局 kinokai@kyoto-seika.ac.jp までご連絡ください。